

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◇◆◇ No.0560 ◇◆◇

19/11/20

## 【 不穏な空気流れる日米政治要因を考える 】

日米中など、各国政治情勢をにらみ、そこそこで不穏な空気が流れている。日本については、10月30日付の当レターで一度報じているけれど、そこから進展(?)もあったことで、米国を中心に日本も加える格好で今回改めて情勢をレポートしてみたい。

### << 日本;年明け総選挙の可能性否定できず >>

10月30日付の当レターで、筆者は「年内の衆院解散・総選挙観測」についてレポートしている。詳細はバックナンバーを参考にされたいが、大筋では台風19号により甚大な被害が発生し補正予算案の編成などが不可避となったことで年内解散説は後退しているが、熾火のように根強くすぶっている。たとえば、ある経済系週刊誌は最新号で、年内最後の大安にあたる日曜日の「12月15日投票説」を大々的に掲げていた一などと指摘していた。

ただ、そののち日本の政治情勢は、さらに混沌とした情勢へと入り込んできた感がある。うちひとつは、「複数閣僚の不祥事が相次ぎ発覚した」ことで、河井法相や菅原経産相が辞任に追い込まれたことはまだ記憶に新しい。就任から2ヵ月たらずに閣僚2人が政権を去る厳しい事態は、かなりの由々しき問題と言って間違いない。

そしてもうひとつは、いわゆる「桜を見る会」の問題だろう。こちらは前回レポート時には少しも話題になっていなかったが、そののち根拠のハッキリしない参加人数の増加や不明瞭な支出、自身の後援会の人間を参加させていたことなど、安倍首相の私的な要因が次々明らかとなり、現在でも新聞や週刊誌、テレビなどで連日取り上げられていることは周知のとおりだ。

ともかく、そんなこんなで安倍政権の支持率も大きく下落している。たとえば、本稿執筆時ではおそらく最新データではないかと思われるフジテレビ(FNN)が行った世論調査(16-17日実施)によると、「支持する」との回答は45.1%で、10月より6ポイントも低下したという。逆に「支持しない」は4.7ポイント上がり、37.7%となっていた。

また「危機的レベル」に達しているわけではないが、こうなってくると危険なのはやはり「追い込まれ解散」だろう。実際、立憲民主党の枝野代表は「説明責任から逃げ回ってきている首相が逃げようと思えば、遠からず『桜疑惑解散』に打って出る。そこに向けて備えを強化していかなければならない」(12日)と発言、また国民民主党の玉木代表も「年内解散、あるいは通常国会冒頭解散に打って出ざるを得ない状況に追い込まれつつあるのではないか」(18日)一とコメントしていた。予想よりも早いタイミングで、安倍首相が「解散・総選挙」というカードを切ってくる可能性は確かに否定できないようにも思われる。

### << 米国;弾劾および来年の大統領選再選の見込みは!? >>

それに対して、トランプ米大統領に関する「政治的な不安」は、実に3つある。最初に、そのすべてを列挙すると、まずは「大統領自身の健康不安」。そして、いわゆるウクライナ疑惑を受けた「弾劾される可能性」、そして最後に「来年の米大統領選をめぐる危機」一になる。

前記のうち「健康不安」から簡単に指摘すれば、そもそもトランプ氏は飲酒や喫煙こそ一切しないが、好物はステーキやハンバーガーなどで肉食中心。反面、果物はほとんど取らないなどの偏食で知られている。したがって、かねてから発音の乱れや不明瞭さを指摘する声は少なくなく、「健康不安」説もかなり前から一部で取り沙汰されていた。

そうしたなか、先の16日には予定になかった健康診断を緊急で実施。ホワイトハウスのグリシャム報道官は「大統領は健康で、年に一度の検査の一部を受けただけ」と健康不安の打ち消しに動いていたが、逆に公表外のタイミングで健康診断を実施したことが、不安を増長させた格好となった感も否めない。ちなみに、今回は「胸痛」の疑いとの指摘が、複数米国紙で指摘されている。

